

《スローガン》

親子で読書 深める絆～本を読む子は かならず伸びる～

- ▶ 山形県PTA連合会では、親も子供と一緒に読書に親しみ、家庭に読書文化の礎を築くために親子読書を推進しています。
- ▶ 親も子も共に読書に親しむことで、親子のコミュニケーションを活発にし、子供も親も心が豊かになり、絆が深まることと思います。
- ▶ 読書習慣が子供の学力をアップします。読書習慣は文章を読み解く力と密接に関係しているのです。

応募ありがとうございました！

令和6年度 「親子で読み合いたい一冊」の紹介

※抽選で30名の方に学校を通して図書券を贈呈しています。

【大ピンチずかん】

この本をえらんだりゆうは、おもしろいからです。家や学校でおこるピンチなことが、ずかんになっていて、ハラハラします。この本を読んで、おとうさんとおかあさんにおきたピンチを聞いてみたいと思いました。(小2)

いろいろな大ピンチをのりこえるお話です。よく失敗するお母さんにおすすめしたいです。(小4)

【水中最強王図鑑】

海の生物や絶滅生物などトーナメントで最強を決める。この本を親子で読んで、とてもおもしろかったです。(小3父)

【もしかしたら名探偵】

ミルキー杉山がつまや、むす子、むすめとさまざまなじけんを解決していき、見ているがわもめいたんていになっているような気持ちになります。この本は、見ているときにかいとうへんというものがあって、そこで家族や友達と「こうじゃない？」など話し、とてももりあがれます。(小5)

【13歳のキミへ】

中学生生活に自信がつくヒント35

この本は、小中学生向けの学習塾をやっている著者が、「メシが食える大人」になってほしいという思いで、12～14歳くらいの読者に宛てて書いたものです。部活・恋・友情と悩みの尽きない中学生時代ですが、華やく時期でもあります。そんな時期を過ごす子には応援歌として読んでほしい。親としては青春の悩みとその解決策を知る一冊として読みたいと思います。(中1母)

【ころべばいいのに】

じぶんのみにくい気持ちやいやな気持ちわたしもわかるころがあって、みんなもそんな気持ちがあるんだとおもいました。(小2)

【りゆうがあります】

この本にきめたのは、話がおもしろかったからです。ハナをほじるのもツメをかむのもごはんをボロボロこぼすのもろう下をはしるのもぜんぶりゆうがあって、そのりゆうがとてもおもしろかったので、わたしも、おとうさんやおかあさんになにか言われたりりゆうを考えてみんなをわらわせたいたいと思いこの本をえらびました。(小2)

【おかあさんがおかあさんになった日】

わたしがこの本をえらんだ理由は、しょうらいのゆめがじょさんして、じょさんしかかわる本だったからです。この本を読んだのでやさしくよりそえるじょさんしになりたいと思いました。(小3)

【あっちゃんのはたけ】

私は野菜が大好きです。でも、私とは真逆なあっちゃんのお話。そんな、あっちゃんですが、畑の楽しさを知ってしまい、きれいな野菜を育てることになりました。このお話は子どもと野菜の成長をどっちも見れるいい本だと思い選びました。(小6)

【猫弁シリーズ】

この本は読む人の心を暖かくして、希望をあたえてくれるものだと思っています。僕は人並み以上に本を読んでいると自負していますが、この本は登場人物たちの個性、かけ合い、物語性、全て面白く、おそらく小学5年生以上であればスラスラ面白く読めるほどです。(中3)

息子から「この本面白いよ」と紹介されて読み始めました。猫弁先生と弁護士事務所の方々が皆さんそれぞれとても個性的で、かつ不器用だけど依頼人からの相談にひたすら誠実に調査して弁護する姿に、涙が出て気持ちが温かくなりました。登場人物に会えるのが楽しみで、読み終わるとすぐに次の本が読みたくなります。(中3母)





親子読書活動紹介《置賜地区》

～本がくれる素敵な時間～

米沢市立東部小学校

東部小学校では、地区の図書ボランティアの皆さんが、読み聞かせやブックトークをしてくださっています。

読書月間の11月には、低学年だけではなく、全学年で本に親しみました。本の魅力に引き込まれたり、笑ったり、優しい気持ちになったり…とてもよい時間でした。

家に帰ってから、「読み聞かせをしてもらった!」「ブックトークおもしろかった!」という話になることが多いようで、家庭で本の話が広がっています。



また、読み聞かせやブックトークをきっかけに、市立米沢図書館『ナセBA』で本を借りて読むことにつながっている様子も見られます。

本がくれる素敵な時間を、学校で、家庭で、地域で広げていきたいと思います。



親子読書活動紹介《村山地区》

家庭と地域と『つながる』読書活動

寒河江市立三泉小学校

本校では、毎月第3土曜日を「家庭読書の日」とし、『おうちで読書』を実施しています。下学年は、自分で選んだ本を家の人に読み聞かせしてもらい、上学年は、自分で選んだ本について家の人に紹介する取り組みです。

また、PTAや地域の方を招いて、朝の時間、月に1回程度の読み聞かせ「オープンセサミ」を行っています。学年に合わせて、本を選定していただき、新しい本との出会いにドキドキわくわくの読書活動となっています。

「おうちで読書」での感想の一部

「野口 英世」

《好きな理由》

ねむらずに勉強に費やすところが、すごいと思ったからです。

《家の人から》

修学旅行でも記念館に行き、同じ東北出身のすばらしい偉人のエピソードなどからいろいろ感じ、学べたことも多かったと思います。強い意志をもって取り組む大切さを学び、これからの人生に活かしていってください。

「ビブリオバトルへ、ようこそ!」

《好きな理由》

主人公のゆずきは、あこがれのゆきや君と同じ図書委員になって、ビブリオバトルにさん加します。そこで、チャンプ本を勝ち取り、ゆきや君に注目してもらえるようにがんばっているところが好きです。

《家の人から》

たくさん本が出てきて、読みたいと思える本もありました。主人公の女の子も、かわいらしくておもしろかったです。



親子読書活動紹介《最北地区》

家族で読書、深める絆 ～本を通して家族のコミュニケーションを

新庄市立新庄小学校 P T A

本校 P T A は、毎月第 3 日曜日を「ファミリー読書の日」とし、学校と連携しながら取り組んでいます。

目的

- ・家族のコミュニケーションを活性化させる
- ・メディアから離れ、家庭での過ごし方について家族で考える機会にする
- ・子どもたちが家庭で本に向き合う時間を設ける

そして、家族で「本との出会い」を楽しむ！

★「ファミリー読書カード」の活用

ファミリー読書 名前 郵便 学年 (O) (M) (S)

家族で読書、深める絆 ～本を読む子は 必ず伸びる～

ファミリー読書の目的

- 1 毎月第3日曜日に決めます。
- 2 ファミリー読書の方法を各自決めます。
- 3 本を選びましょう。
- 4 できるだけ読書の記録をとりましょう。

ファミリー読書の仕方

- ① おうちの人から読み聞かせをしてもらおう
- ② おうちの人へ読み聞かせをしよう
- ③ 同じ時間に親子で読書をする
- ④ その他

①～④以外の自分から読書してもいいよ！

月日	読んだ本	方法	感想
5月	もっかいにいばきさん	①	かべのやまびこがうたをうたうのを聞いてうれしかった。
6月	おうちの人から	②	おうちの人から読んでくれたのでうれしかった。
7月			本についての感想やファミリー読書としての感想
8月			
9月			
10月			
11月			
12月			
1月			

今年度のわが家のベスト本 もっかいにいばきさん

読んだ理由 最近にある「もっかいにいばき」ことについて、家で読んでくれたくさん考えました。これからは、いろいろなものを大切にしたいと思います。

すすめ方

- ① 家族で時間を設定
- ② 本を選定
- ③ 方法を決定
- ④ 感想記入

主な方法

- ① おうちの人から読み聞かせをしてもらう
- ② おうちの人へ読み聞かせをする
- ③ 同じ時間に親子で読書をする
- ④ その他

最終月(1月)に「わが家のベスト本」を決定！

★ファミリー読書おすすめ本の紹介コーナー

図書室内に、各家庭から選ばれた「ベスト本」や新刊図書を紹介します。

★児童会が中心となる活動

図書委員会の児童が、ファミリー読書のある週に、自分の読む予定の本のタイトルや読書方法について校内放送し、呼びかけ。

児童による読み聞かせや図書まつりの開催など、読書に親しむ活動を実施。



◇地域ボランティアによる読み聞かせ◇

月 2 回の朝活動の時間や地域交流室あじさいルームにおいて中間休みに、読み聞かせサークル「おはなし広場」のみなさんから読み聞かせをしていただき、子どもたちがお話の世界に引き込まれる楽しい時間に。子どもたちの本との出会いや家庭での話題にもなり、家族での読書の取組みが広がるかけ橋に！

親子読書活動紹介《庄内地区》



親も子も楽しめる読書体験

鶴岡市立朝陽第二小学校 P T A 副会長 佐藤 美保



本校が親子で取り組んでいる読書活動は大きく三つあります。一つは長年活動が続いている読み聞かせサークル「おはなし朝ごはん」の方々の取り組みです。もうお子さんが本校に在籍していない地域の方も活動が続けてくださっており、子供たちは「ワクワクして楽しいお話だった。」「次はどんなお話が聞けるのか。」「自分が選ばないようなお話を知ることができる。」と楽しみに待っています。

二つ目は、低学年で「一人一役」で、本の読み聞かせを行っている学年があることです。「一人一役」とは、親子行事の係やベルマークの集計など子どもたちに関わる仕事を保護者全員が行うというものです。その中に読み聞かせがしっかりと位置づけられていることで、子供たちが本に親しむ大きなきっかけになっているのではないかと考えます。

三つ目は、夏休みに全児童が取り組む「親子読書」です。親と子が同じ本を読み、感想を一枚の用紙にまとめ、伝え合う活動です。保護者は落ち着いてじっくり読書に向き合うことが難しい状況にある人が多いと思いますが、この機会に「久しぶりに一緒に読書ができてよかった」「なつかしい気持ちになれた」とあたたかい感想をもつ方が大変多かったです。これらをまとめた図書館だよりが発行されたり、保護者会の時に掲示されたりして他の家庭の様子を知ることもできます。本から得られる感動や知識もちろん大切なことではありますが、親子でそれぞれ考えや感想をもち、それを伝え合い気持ちを共有したり、相違に気づいたり…親子で行うことで得られるものの多さに驚き、このような機会に感謝しております。

「親子で読み合いたい一冊」ベスト5

過去5年間にわたる応募の中から、親・教師・子供が推薦して下さった書籍「ベスト5」を紹介합니다。家族で一緒に読み合っははかがでしよう。

児童・生徒の部

☆過去5年間の応募総数：2, 148件
(R2~R6)



5位



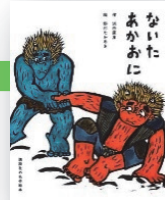
「バムとケロの
もりのこや」

4位



「おしりたんてい」

3位



「ないたあかおに」

2位



「ざんねんな
いきもの辞典」

1位



「ふしぎ駄菓子屋
銭天堂」

保護者・教師の部

4位
(同数)



「バムとケロの
もりのこや」

3位



「おしりたんてい」

2位



「ざんねんな
いきもの辞典」

1位



「ないたあかおに」

1位



「ふしぎ駄菓子屋
銭天堂」

「シリーズ本」 ランキング ベスト5

シリーズ本としてみると、多くの方から推薦していただいた本があります。大変人気のあるシリーズ本です。

1位:「かいけつゾロリ」

ゾロリはあきらめずにがんばることで大活躍します。あきらめずに続けているとそのうち成功する？お話。

2位:「バムとケロ」

バムとケロの他にたくさんのお友達が登場するので、読むたびに子供と新しい発見ができる楽しい一冊です。

3位:「おしりたんてい」

少しおかしな(おならを出す)おしりたんていが、依頼があるとすばやく推理し、事件を解決してしまいます。

4位:「ノラネコぐんだん」

8匹のノラネコたちがおもいのままに行動し、大騒動を巻き起こします。食いしん坊やおかしな食を楽しく描いた絵本です。

5位:「ハリーポッター」

もし、自分や家族が魔法使いだったら、楽しいのか大変なのか想像もつきませんが、夢があるお話です。



山形県PTA連合会
<https://ymgt-pta.jp>